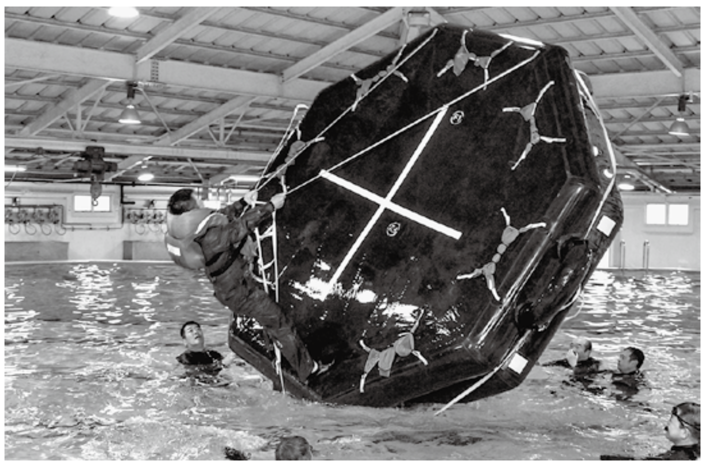

反転した救命いかだの復正

救命いかだへの負傷者の引き上げ

↙向けで縦一列に並び、足を下の人の脇に差し入れて各人がつながる。リーダーの号令で呼吸を合わせ、手で水をかいて頭の方向へ進む。一体化することで、①発見を容易にする、②孤立を防止する、③波にのまれることを防ぐ。

☆実技3

救命いかだに乗り組む

①反転した救命いかだの復正

救命いかだが転覆した状態で浮かんでいることを想定し、これを修復する訓練を行う。

まず、ボンベのあるヘビーウエイト側に足をかけ、いかだに乗り、裏面に張られた復正用ロープに自分の体重をかけて手繰り寄せながら引いていき反転させる。ロープを手繰ることで、いかだの真下で下敷きになることを防ぐ。風下側で行う。

海中から救命胴衣を着用した状態でいかだに上がるのが難儀のようだった。

②水中から救命いかだに乗り組む

いかだへの上り口は2カ所。体力のある人から乗り、自力での乗り込みが無理な人には、先行者が左右から救命胴衣を掴んで引っ張り上げる。

パドルやシーアンカーなど装備品の使い方も実習する。

◇

講習時間は着替えも含めトータルで3時間半ほど。体力の消耗を考え、適宜休憩をはさみながら進められる。

受講生からは、「5年ぶりなので感覚を思い出すのに時間がかかった」「ライフジャケットを着用した状態での水中での動きはかなり制限されるので、いかだに乗り込むのが難しかった」などの感想が聞かれた。実際に体験することがいかに重要であるかを実感する体験・見学会であった。

クルーズ客船の教育事情

フィリピン人乗組員の研修から

元商船三井客船チーフパーサー
武馬猛

第55回 多様な日本語 外国人に難解

再研修Ａクラスの教室

★船からの要望

現役の日本人乗組員に、「マニラでの再研修ではフィリピンクルーにどういうことを教えてほしいか?」を聞いたところ、「八分目とか五割とかをお願いします」とのことだった。

Fifty-fiftyと似ている五分五分はたいていは知っている。％でも通じるので、日本特有の割合は教えていなかった。

御飯のお代わりに多用される「八分目」は、五分五分から察しがつくが、「八割下さい」とか「80％ほど」とは言わない。

日常的に百分比と和洋混用されていて、使い分けが微妙だ。「八分目」には「少ない目」というニュアンスが感じられる。

別のリクエストは「人に呼び掛けたり、呼び止める場合、フィリピンクルーたちには戸惑いがあるようなので…」と言う。

教えたのは「もしもし」とか「すみません」「お客さまぁ」だが、「もしもし」には苦笑した。日本人が電話で多用するのが滑稽に思えるらしい。

もしも名前を知っておれば、「〇〇様」と声を掛けるのが妥当である。教室でこの説明をしているとき面白い話を聞いた。日本人から「それ逆さまだよ」と指摘されて、「坂様」と誤解したという。「逆向き」と似ているが、逆さまは物の表裏よりも上下逆の意味合いが強い。

★二人称

〝you〟にあたる日本語は英語とは比べものにならないほど数多い。話し相手との関係によってかなり変わるのである。

一覧表にしてみたが、1枚に収めるのに苦労した。全部を覚えるのはとても無理だろう。

コックの受講者からの質問。「お前という言葉がテキストに無いのですが…」とのこと。

職場で「お前」と言われるとき、彼はなんとなく不快感を覚えたのだろう。説明が難しい。

ほかの者も耳にしているはずで、もし回答に窮すれば、侮辱的な感情のこもった言葉だという印象を与えそうだ。

「〝お前〟は家族の間で多用されるが、父親から妻や子供に対して、長兄からは弟や妹にも使われる。男性だけの言葉で、母親や姉など女性は使わない。また、男の親友同士でも使われる。喧嘩で使えば相手を見下げた悪口悪言である。しかし、一般的には幾分ラフだが、親しい間の男言葉だ」と話した。

似た言葉の「君」は男性の年長者が使う。日本人は欧米風の呼び名であるニックネームを持たない。それゆえ多くのyouを使い分けるのだろう。これが外国人には複雑なのである。

★テストさまざま

私が発音の似た二つの日本語を言って、英語で答える聞き取りのテストをしていた。

今度／温度、こども／果物、種類／書類、すぐ／まっすぐ、だいたい／団体、集合／正午、卵／タバコ、洗剤／ぜんざい／前菜、荷札／名札／値札など。

意味を二つ回答する言葉では、いっかい、たかい、こしょう、あつい、かぜ、はやい、かみ、はし、いつか、じ…など。

同じ意味の別の言葉を答える問題では、だいたい↓およそ、まずい↓味ない、係↓担当者、温度計↓寒暖計、今晩↓今夜、多い↓たくさん、出港↓出帆、日本酒↓お酒、食事↓ごはん、和食↓日本食、真ん中↓中央、正午↓昼、前もって↓事前に・あらかじめ…など。

試験は最終日の前日だが、数日前に答案用紙を取り出したところ、非難の表情に変わった。「非公式のテストだから…」と断っても顔をしかめている。

短い言葉がローマ字で書いてあって、それがgoodかbadかを〇×で解答するだけ。簡単な問題なので一安心の様子だった。

ぬるいお茶／正しいおつり／ていねいな挨拶／正確な時間／親切な乗組員／遅い仕事／汚いナプキン／完全な準備…など。

ただし、採点が変則で、正解は1点、無回答は0点、間違いはマイナス2点。当てずっぽうの誤答にはペナルティを課す方式とした。「合計点がゼロ以下になる可能性がありますが…」と言われたが、にやりと笑って「リスクとスリルを楽しめ!」。

編集から発送までの総合印刷企業
ASAGAMI
アサガミプレスセンター株式会社
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-4-20 TEL 03(5690)1113 FAX 03(5690)3800